

「安全で安心できる食事介助とは？」

2年7組36番 的場 聖梨奈

2年7組38番 山本 あかね

実習施設：特別養護老人ホーム船橋百寿苑

<テーマ設定の理由>

- ①人間が生きる上で、大切な食事という行為に興味を持っていた。実習中では様々な利用者の安心で安全な食事介助を実習し気になったから。
- ②一人ひとり食べるペースが違う利用者に、どうしたら不安等を与えずに、食事介助ができるか疑問に思ったから。
- ③食べる意欲がない利用者に、どうしたら食べてもらえるのか気になったから。

<介護の実際>

①

- ・介助が必要な利用者は、口腔内の食物が飲み込めたのか、喉を確認してから介助を行う。
- ・食事中、スプーンの量が少なくても（1/3）、多くても（一杯盛り）誤嚥を起こす可能性があるがあるので、適量（2/3）にする
- ・気分確認を行う
- ・利用者の食事形態の把握

②

- ・その日の体調が安定していて、熱はないか、呼吸が落ち着いているときに食べてもらう。
※食事の間の時間が空くと疲れてしまい、寝てしまう利用者には、口の中に食べ物が残っていると誤嚥を起こしてしまうので、声掛けなどをして起こすようになる。
 - ・食べるペースが早い人→誤嚥しないように見守る、声かけ。
 - ・食べるペースが遅い人→口腔内の食べ物がなくなってから介助、声かけ。

③

- ・口元にスプーンを、当てて刺激すると自分から食べる。
 - ・その時のメニューを、利用者に説明しながら食事を勧める。

<考察>

- ①の工夫点の理由は誤嚥等の危険を下げるため、むせながら食べる、一度に多量の食べ物をとる、急いで水分を取る、いつまでも口の中に食べ物をためていることを防ぎまた、咀

嚙や嚥下が低下した利用者には、きざみ、超きざみ、ミキサー、主食は軟飯、お粥を提供し、咀嚼が低下した利用者や嚥下が低下した利用者でも食べやすいようになっていた。

②一人ひとりの食べるペースに合わせて食事を苦痛に感じさせないためそのためには、利用者のことを深く理解する。また、食事介助を行うときに、相手との介助のタイミングが、合わなかったりその日の体調等によって、食べる量が違うと分かったことから、利用者のその日の体調（顔色、気分）確認やタイミングを合わせることが大切だと考えた。タイミングは利用者の喉元を見て判断するといわれた。③の工夫点の理由は口元にスプーンを当てて刺激すると自分から食べると教わった。これは条件反射だと考えたスプーンで舌を軽く押して上唇に軽く触れるという方法が考えられた。①、②、③、の工夫をしたことで利用者が安全に食事をする事ができると考えた

参考文献

河合太加子，生活支援技術Ⅰ基本編，メヂカルフレンド社，
平成24年2月10日第一版第6刷発行

URL：<http://www.cans.zaq.ne.jp/haginosato/03kiwami.html>

安全で安心できる食事介助とは

特別養護老人ホーム百寿苑
2年7組 36番的場 聖梨奈
38番山本 あかね

☆テーマ設定の理由☆



1. 人間が生きる上で大切な食事という行為だがどうしたら、安心して安全な食事行為を行えるのか気になったから。
2. 一人ひとり食べるペースが違う利用者にどうしたら不安等を与えずに食事介助ができるか疑問に思ったから。
3. 食べる意欲がない利用者にどうしたら食べてもらえるのか気になったから。

☆介護の実際☆



1. 介助が必要な利用者は、口腔内の食物が飲みこめたのか喉を確認してから食事介助を行う。食事中スプーンの量が少なくても(1/3)、多くても(一杯盛り)誤嚥を起こす可能性がある、あるので適量(2/3)にする。
2. その日の体調が安定している(熱がないこと、呼吸が安定していることなど)の確認
3. 口元にスプーンを当てて刺激する。



☆食事介助時の適切な量☆



一杯盛り

適量 2/3

少量 1/3



☆考察☆



1. 誤嚥等の危険を下げるため。咀嚼や嚥下が低下した利用者でも食べやすい形状になっていた
2. 食事介助を行うときに利用者のその日の体調の確認やタイミングを合わせることが大切だと考えた。
3. 口元にスプーンを当てて刺激すると自分から食べると教わった。

～全体のまとめ～

- 1. 2. 3. の工夫をしたことで食べる速さの違う利用者でも食事形態を利用者に合わせきざみ、超きざみ、ミキサー、にすることで安全に食事を行うことができ、不安等を減らせると考えた。



ご静聴ありがとうございました

